

あいち通信

第四十二号 平成二十五年二月
日本会議 愛知県本部 事務局
052・763・4588

報告・天皇陛下のお誕生日を奉祝する集い・「谷田川 惣先生、記念講演会」

以前大阪で谷田川先生の講演を聴いた時に、今度は是非とも愛知に来て講演をして頂きたいと考えていたので、実現して本当に嬉しいです。講演「皇統は万世一系である」を企画して頂いた関係者の方々にお礼申し上げます。講演の内容は大きく四つに分かれていますと感じました。私の独断でタイトルを付けるとすれば「一」実は日本は理想の国。「二」皇位と皇統の違いからの万世一系とは。「三」保守思想がなぜ伝統を大切にするのか。「四」以上を踏まえて皇統を五百年後も維持するには。という具合で、順番に感想を述べたいと思います。



100名結集。H24. 12. 23 於：名古屋市都市センター

「一」 社会契約論で有名なルソーが「君民一体が理想だが実際には存在しないので仕方なく民主主義を採っている」と言っているが、実は世界で唯一日本が君民一体の国だということを谷田川先生は説明されました。これを聞いた時、日本は素晴らしい国だと思ふ反面、一般の日本人には当たり前過ぎて実感出来ていないと思いました。灯台下暗しです。

「二」 今上天皇は第百二十五代であります。これは皇位を示して世代でいえば七十二世で、これを皇統といい、途中で天皇になれない方がいても父子で繋がっていて遡ると神武天皇に行き着くというのが万世一系。女性天皇は父子一系のみで生涯独身か、未亡人と決まっていたので中継ぎであることが自明で、一系の皇統であることが、震災、災害、復興が早められた要因であるという説明を聞き、二千年以上も父子で受継いで来たことの困難さやと思うと安易に女系天皇などは考えてはいけないなと改めて実感しました。

「三」 歴史上、人間の理性（理屈）だけで世の中を作ろうとすると必ず失敗して、無理があるものなので恐怖政治に向かい易い。一代で考えたもの（理性）は不安定で、長い時間を掛けて伝統となったものが世の中を安定させる。秩序は伝統が作っていて、日本の伝統の中心にいらつしやるのが天皇であり、伝統を中心にものを考えるのが保守思想であるという説明を聞き、改めて伝統の大切さを

知ることができ、その中心に天皇がいらつしやることで日本の世の中は安定している事を実感しました。また保守思想は単に政治思想を表しているだけではなく、もっと広い意味合いがあることを再認識しました。

「四」 以上、「二」までの説明を踏まえて五百年後の子孫にも日本を伝えていく、つまり皇統が続いていくためにどうすれば良いかという答えの一つが旧宮家の復活であるということの説明がされています。これには継体天皇の先例があり、皇位の系統が離れているため即位から二十年間は都のある大和に入ることが出来ない程、皇位の継承に違和感を持つ人が多かったが、八十年後には違和感もなくなり安定した。このことから父子一系の原理原則を守るのが重要であり、旧宮家は今上天皇の系統から六百年以上も離れてはいるが、お四方の内親王を嫁がせている明治天皇の御意志も汲むべきではないかという説明を聞き、まずは原理原則に従って出来ることをやらなければ皇統を維持することは出来ない、身が引き締まる思いでした。日本という世界が理想とする国で伝統の中心にいらつしやる天皇が二千年以上も父子一系で受継いできた困難を思うと我々現代人はまだまだ努力をしなければならぬと思います。こういう事を知らない日本人が多いので、谷田川先生の講演を通じてもっと多くの日本人に皇統を維持することの大切さを知って欲しいです。

二 案内 愛知竹田研究会

- 「古事記編纂千三百年を迎えて 『日本を学ぶ勉強会』、『古事記』連続講座」
 - 日時：二月二十四日（日）午後二時半開場・三時開会～五時閉会
 - 会場：アパホテル名古屋錦・十一階 電話052・953・5111。
 - 会費：二千元、学生（社会人学生は除く）（学生証提示必要）は無料、非会員三千元（ただし、当日、会員登録されれば、二千元）
 - 懇親会：四千五百円（希望者のみ、竹田恒泰先生との懇談会）（午後六時開始）
- ※講座受講 懇親会参加につき、必ず、事前にTELでのお申し込みが必要です。
申込先・愛知竹田研究会・090・6466・1592（服部）



年明け1月6日、18名が参加。清々しい思いで、奉仕できました。

● 愛知県護国神社清掃奉仕予定 毎月の第一日曜です。

次回は二月三日午前八時開始の九時終了です。三月三日、四月七日と引き続き予定しております。軍手は必ずご持参下さい。また、小雨なら社屋の木枠拭き掃除しますので雑巾を持参下さい。大雨は中止になります。が、疑わしい天気の場合には、現場責任者の服部宛、お電話下さい（090・6466・1592）。是非奮ってご参加ください。

● 「日本の息吹」をいつも「購読下さり、誠にありがとうございます。」